

横浜みなと博物館ニュース

No.1 2023年4月1日発行



(左上) 横浜みなと博物館外観 / (右上) 映像展示「黒船来航」
(左下) VRシアター「みなとカプセル」 / (右下) 映像展示「横浜港の埋立」

特集1

横浜みなと博物館 13年ぶりのリニューアル

2022(令和4)年6月28日、約1年の改修工事を終え、横浜みなと博物館がリニューアルオープンしました。当館は1989(平成元)年に横浜マリタイムミュージアムとして開館し、2009(平成21)年には横浜開港150周年を記念して横浜みなと博物館として生まれ変わりました。今回の改修工事はこの時以来、13年ぶりの大規模な博物館のリニューアルです。本特集ではリニューアルの背景や新たな展示の見どころなどをご紹介します。

リニューアルの背景

横浜みなと博物館では毎年展示パネルの内容を更新し、最新の情報を展示に反映するように努めてきましたが、横浜港と当館を取り巻く環境はこの13年で大きく変化しました。今回のリニューアルには近年の横浜港の3つの出来事が大きく影響しており、常設展示もこれらを踏まえた内容に生まれ変わりました。

第一の出来事は新本牧ふ頭の着工です。横浜港におけるコンテナ取扱貨物の増大とコンテナ船の大型化に対応するため、新たなコンテナターミナルとして、2020(令和2)年に新本牧ふ頭の建設工事が始まりました。今回のリニューアルでは新本牧ふ頭の建設に至るまでの横浜の埋め立てと築港の歴史をたどることができる展示室「埋立と築港の技術と歴史」が新たに作られました。

第二の出来事はクルーズ客船受け入れ機能の強化です。国内外のクルーズ人口の増加を受け、横浜市は2019(令和元)年に新港ふ頭と大黒ふ頭に新しい客船ターミナルを整備し、より多くのクルーズ客船が横浜港に入港できる環境を整えました。さらに横浜港を発着するクルーズ船客が横浜臨海部の観光を楽しめるように、当館には観光の拠点としての役割が求められています。そこで、今回のリニューアルでは展示の多言語対応を図る

とともに、外国の方も横浜港について分かりやすく学べるように映像展示や体験型の展示を充実させました。

第三の出来事は帆船日本丸の重要文化財指定です。帆船日本丸は2017(平成29)年に海上で保存されている帆船として初めて国の重要文化財に指定されました。重要文化財の附(つけたり)資料である航海日誌や機関長日誌、図面類などを保管する当館にとって、帆船日本丸の文化財としての価値を発信することは重要な役割です。今回、新たに導入されたVRシアター「みなとカプセル」と、隣接する展示コーナーでは帆船日本丸の現役当時の航海訓練の様子や、帆船日本丸が横浜で保存公開されることになった経緯などを紹介しています。

常設展示室のリニューアルについて

今回のリニューアルで地下1階にある2つのゾーンのうち、前半の「横浜港の歴史ゾーン」は一部が新しくなりました。一方後半の「横浜港の再発見ゾーン」は全面的なリニューアルとなりました。また、この他にも常設展示室入口付近の「空から見た横浜港」の写真を2021(令和3)年撮影の横浜港全域の衛星写真に更新するなど各所の展示を更新しました。

横浜港の歴史ゾーン

「1 開港前後の横浜」には、以前から人気のあったペリー艦隊の模型を生かした映像展示を新設しました。ここではペリーと幕府との交渉をドラマ形式で伝える「黒船来航～日本開国前夜」という約6分間の映像を上映しています。「5 高度経済成長と港の整備」には港湾荷役の模型や実際に使われていた荷役道具が、「6 コンテナ輸送時代の到来」にはコンテナ貨物を積み込む実物大のフォークリフトの模型が「再発見ゾーン」から移設されました。これにより、コンテナ登場前後の荷役の違いを「歴史ゾーン」でより詳しく紹介できるようになりました。また新たに導入された「ガントリークレーンシミュレーター」では横浜港でのコンテナの積みおろしを体験することができ、人気の展示の1つとなっています。



大人気のガントリークレーンシミュレーター

最後の「7 現代の横浜港」は今回新しく作られたコーナーで、クルーズ客船ダイヤモンド・プリンセスの模型や新本牧ふ頭の模型などを展示しています。また、大規模災害への備えや2050年の脱炭素社会の実現を目指すカーボンニュートラルレポートの取り組みなど、近年の横浜港の事例を紹介しています。

横浜港の再発見ゾーン

全面的にリニューアルされた「横浜港の再発見ゾーン」の目玉展示はVRシアター「みなとカプセル」です。正面、左右、床、天井の5面にLEDパネルを配置した国内初の常設VRシアターで、ドローンで撮影した新本牧ふ頭の工事現場や大さん橋・新港ふ頭の2つの客船ターミナル、帆船日本丸の総帆展帆そうはんてんぱんの映像などを大迫力で楽しむことができます。また、人気展示の操船シミュレーターもこのゾーンで引き続き体験することができます。「埋立と築港の技術と歴史」は江戸時代の新田開発から新本牧ふ頭の建設まで、主に埋め立ての技術の移り変わりを紹介している展示室です。中央には横浜港全体の模型があり、埋め立てによって横浜港が発展してきた様子を映像とプロジェクションマッピングで学ぶことができます。続く「みなとの広場」では東京湾でのカーボンニュートラルレポートの取り組みや、食材が食卓に届くまでのサプライチェーンのしくみを紹介する映像などを上映しています。また最後の「世界とつながる横浜港」には、横浜港の姉妹港・友好港・貿易協力港との交流を各港から贈られた記念品とともに紹介する「横浜港と世界のパートナー」、食べ物や洋服、電気やガスが港を通じて私たちのもとにやってくるのが学べる「港のみえるキッチン」、帆船日本丸や昔の大さん橋、アンクル船長など好きな写真を選んで記念撮影をすることができる「フォトスポット」などのコーナーがあります。

今後の博物館の活動について

横浜みなと博物館がリニューアルオープンして、間もなく1年の節目を迎えます。次の大きなステップは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、休止を余儀なくされた博物館ボランティアの活動を再開させていくことです。まずは2023(令和5)年4月から展示案内ボランティアによる常設展示室のご案内を再開します。また教育普及ボランティアによる折り紙教室・ペーパークラフト教室についても再開の準備を進めています。必要な感染拡大防止策をとりながら、ボランティア活動を順次再開し、ボランティアと来館者とのコミュニケーションをこれからも当館のセールスポイントのひとつとして打ち出していきたいと考えています。(奥津憲聖)

特集2 ここが変わった！柳原良平アートミュージアム



柳原良平アートミュージアムの内観

横浜みなと博物館のリニューアルにあわせ、柳原良平アートミュージアムも展示作品を一新しました。

柳原作品の魅力は、切絵、リトグラフ、油彩、水彩など多様で多彩な技法、そして明るく親しみやすい色彩、デザイン、タッチです。それは柳原が生涯のテーマとして描き続けた船の絵と、代表的な仕事であるアンクルトリス、そして絵本、漫画、デザイン、装丁など全ての仕事に貫かれ、人々を魅了し続けています。新しい展示では、このような柳原の仕事を通観できる作品を紹介するようにしています。

柳原が高校生の時に発行した船の機関誌『航跡』や、大学時代のスケッチブック、アンクルトリス誕生以前のサントリーの新聞広告原画など、柳原の前半生の作品を以

前より多く展示します。『ビール天国』の表紙原画「チボリ公園」は、新しく当館に寄託された作品で、約20年ぶりの公開となります。

『週刊新潮』の連載「男性自身」原画、船のイラストレーションは全て新しい作品を展示します。また柳原作品の最大の魅力である切絵、50歳を過ぎて取り組んだリトグラフは、年を経るごとに移り変わるタッチがわかるよう年代ごとに作品を選びました。

また、今回「横浜と柳原良平」のコーナーを新設しました。1964(昭和39)年に横浜に転居してから、柳原は横浜の港と街に深くかかわってきました。「みなとみらい21」の愛称募集ポスターなどから、柳原と横浜の関係を知って頂ければと思います。

特集展示のコーナーは以前よりも広くなり、より多くの作品を展示できるようになりました。2022年度は「柳原良平が描く横浜の港の風景」と「柳原良平と船の旅」という2つの特集展示を実施し、多くのお客様にご来場いただきました。

柳原良平アートミュージアムは今年3月27日に5周年を迎えました。これからも当館では柳原作品の整理・公開を順次進めてまいりますので、どうぞご期待下さい。

(三木綾)

所蔵品の紹介



港湾荷役道具 ドラムポーター L-300 型

横浜港では貨物の形態や特性に合わせた道具を工夫して、港の貨物を取り扱ってきました。このドラムポーターは、直径60cm程度のドラム缶をひとつずつ移動する道具です。支柱部分が上下し、高さを変えることができました。最大荷重300kg、大有商事製。横浜の港湾荷役会社より寄贈された資料です。寸法88.4×94.1×101.7cm。(島宗美知子)

博物館の仕事図鑑



船舶模型の修理

博物館内に展示している船舶模型を展示ケースから出して、補修しているところです。良い状態でお客様に見ていただけるよう、簡易な修理は博物館のスタッフで行いますが、業者さんに入ってもらうこともあります。また、1年に一度は博物館スタッフで模型の清掃をし、あわせて点検をしています。

(島宗美知子)

展示案内

横浜みなと博物館 企画展

関東大震災100年 船と港から見た関東大震災 2023(令和5)年8月26日(土)～11月5日(日)

2023(令和5)年は、1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災から100年目の節目の年にあたります。本展覧会では関東大震災の復興に船、港が果たした役割を紹介します

柳原良平アートミュージアム特集展示

花と木と船と

2023(令和5)年4月25日(火)～10月15日(日)

美しい花や木々を船とともに描いた作品を約20点展示します

街の中のRyo.デザイン

2023(令和5)年10月17日(火)～2024(令和6)年3月24日(日)

横浜などの企業や団体向けに制作された広告デザインを展示します



震災後の大さん橋に停泊する救援船
1923(大正12)年『関東震災地写真帖』より



崎陽軒 みなと寿司弁当 パッケージ 1998(平成10)年

活動報告 -2022(令和4)年度-

●所蔵資料データベース一部公開

2022年5月、明治～昭和期の横浜港の絵葉書など、所蔵資料の一部を当館Webサイトで公開。

●柳原良平アートミュージアム特集展示

2022年6月28日～10月2日に「柳原良平が描く横浜の港の風景」を、10月4日～2023年4月23日に「柳原良平と船の旅」を開催。

●展覧会「ベストセレクション 世界の客船ポスター」

2022年10月8日～12月4日。当館が所蔵する日米欧の客船ポスター約80点を展示。タイタニック日本人生存者の手記も特別公開。

●ゲストトーク シルクスペシャル

2022年10月23日。横浜繊維振興会の皆様をお招きし、シルク製品やスカーフについて学ぶイベントを開催。

●柳原良平アートミュージアム5周年

2023年3月21日から記念イベントを実施。博物館へのご寄附を活用して修復した水彩画「山下公園とQE2」は2023年10月15日まで展示予定。

◆2022年度寄贈資料

2022年度は44名の方から計814点の資料をご寄贈いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。寄贈資料の一部は新着資料コーナーで展示しました。

利用案内

開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般500円、65歳以上400円、小・中・高校生200円

※帆船日本丸との共通券(一般800円、65歳以上600円、小・中・高校生300円)もございます。

※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が100円の特別料金になります。

休館日 月曜日(祝日にあたる場合は開館し、翌日休館、ただし5/1(月)、8/14(月)は特別開館)、年末年始、その他メンテナンス日

交通 JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車 徒歩5分

みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 徒歩5分



編集後記

今年3月に外国のクルーズ客船の受け入れが再開し、横浜港に賑わいが戻ってきました。当館では開港から現在までに横浜に入港した定期航路客船やクルーズ客船を写真や模型でご紹介しています。当館にご来館の際はぜひお気に入りの一隻を見つけてみてください。(奥津憲聖)

横浜みなと博物館ニュース No.1

発行日 2023(令和5)年4月1日

編集・発行 横浜みなと博物館

〒220-0012

横浜市内西区みなとみらい 2-1-1

TEL 045-221-0280

詳細はこちら

